

RSシリーズ比較表

2022年4月

株式会社トーキン

RSシリーズ共通の特徴

長さの異なる3種類のフレーム組合せにより、3.6[m]から1.2[m]単位で自由に全長設定が可能。

最長実績：全長40.8m、ストローク39.4m(2020年4月時点)

	特徴	最大積載重量[kg]	ケーブルベア位置	全幅[m]	速度[m/s]
RS1S	標準型スライダー 搭載ロボット:軽～中量級 上部歩行デッキ付	1200	サイド	1.4	1.0～2.0
RS1H	標準型スライダー 搭載ロボット:重量級 上部歩行デッキ付	3600	サイド	1.4	0.5～1.2
RS2S	標準型スライダー 搭載ロボット:軽～中量級 幅狭型※1(ケーブルベア一体型)	1200	センター	1.0	1.0～2.0
RS2H	標準型スライダー 搭載ロボット:重量級 幅狭型※1(ケーブルベア一体型)	3600	センター	1.0	0.5～1.2
RS3 ※2	小型スライダー 搭載ロボット:軽～中量級 極幅狭型※1(ケーブルベア一体型)	1200	センター	0.75	1.0～2.0
RS4	M-710iC及び MOTOMAN-GP50専用機 両脇歩廊付き	1200	センター	0.8	1.0～2.0
RS5	大型スライダー 搭載ロボット:超重量級	6000	センター	1.8	0.3～0.75
RS7	天吊り型スライダー 搭載ロボット:軽～中量級 片持ち支柱型	1200	-	1.5	1.0～2.0
RS8S ※3	省スペース縦型スライダー 搭載ロボット:軽量級 ロボット壁掛け設置及び傾斜設置用	300	センター	0.67	1.0～2.0
RS11	超小型スライダー 搭載ロボット:超軽量級(スカラロボット用) 高速型	100	サイド	0.6	3.0

サイドベアの特徴

LMガイドレール及びラック上部を、デッキ（カバーを兼ねる）が覆っており

上部からの防塵・防滴性に優れます。

デッキは、上部を歩行することができ、メンテナンス性にも優れます。

また、ケーブル収納容量を増加させることができます。

但し、センターベア型と比較して、設置面積を要します。

センターベアの特徴

スライダー内部にケーブルベアを配置しており、サイドベア型と比較して省スペースです。

但し、ケーブル収納容量の増加にはスペースの都合上限界がございます。

また、スライダー上部を歩行することはできません。

(RS4はセンターベア型でも上部歩行が可能)

注意

※1:RS1比

※2:RS3はケーブルベア選択、据付け等制限があります。別途お問合せください。

※3:中量級ロボット搭載の場合は別途お問合せください。